

縄文人のムサイさん 遺跡巡り魅力伝える

縄文時代からタイムスリップして、富士見町の縄文文化の魅力を伝えている「縄文人ムサイさん」が、諏訪地域や山梨県など八ヶ岳周辺の14市町村で構成する日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」の構成文化財へ旅に出掛けた様子が、ポスターや写真投稿アプリ「インスタグラム」で公開されている。諏訪市の曽根遺跡や原村の阿久遺跡、北杜市の梅の木遺跡などを訪問。風景や自然の写真を見て文化財の魅力に触れてほしいと呼び掛けている。

(濱翔貴)

ポスターやインスタで

富士見町商工会の事業 諏訪市の写真家「moko」で、同町の井戸尻考古古館と「project」が協力し

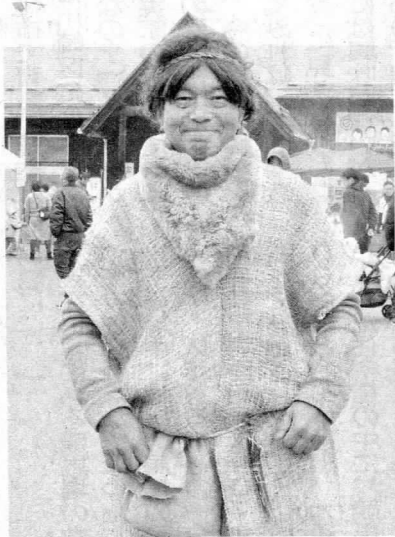


縄文人ムサイさんが構成文化財に訪れた様子を写したポスター



公式インスタグラムのQRコード

た。「星降る中部」は日本遺産として2018年に認定。文化財に物語性を持たせて観光振興などにつなげる目的で、八ヶ岳山麓を中心とした縄文時代の黒曜石鉱山や土器、土偶などが物語を紡いでいる。企画は、構成文化財には景観が美しい場所が多くあり、土



縄文人ムサイさん

かけになればと実施した。ムサイさんは地元となる井戸尻考古古館から出発。昨年9月ごろから川上村の大深山遺跡や下諏訪町の星ヶ塔黒曜石原産地遺跡などへ出掛けている。ポスターは構成文化財で撮影した1枚の写真を使ったB2サイズと、補足説明として遺産の周辺観光地などを載せたB3サイズを用意。インスタグラムでは、ムサイさんが範囲内のさまざまな観光地に訪れた様子を見ることが出来る。

インスタグラムに投稿する写真は順次追加予定。ポスターはエリア内の施設や店舗などで掲示しているという。町商工会は「エリア内の遺跡や景色の良さ、ムサイさんの面白さの両方を楽しんでほしい」と話している。